

広報 ごじょうめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 総務課 電話(018876)代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876)2430番 (一部五門)
郵便番号 018-17 毎月1日・15日発行

人口と世帯

世帯数 3,911 世帯
人口 18,018 人
内訳 { 男 8,706 人
女 9,312 人

住民登録調 (47年4月末現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。

・秋田県五城目町・

※町民と町政をむすぶ広報紙

農業の近代化に取り組む

本町の昨年における生産調整は215haの減反と1,001tの減産で、面積は目標の74%、収穫は68.4%の達成率であった。作況指数は96.4となっている。全国的にみると46年の作況指数が93で、実に17年ぶりの不作となり農業関係者に大きなショックを与えた。

稲単作地帯であるこの町でも従来から地域全体として農業をとらえ、これに対応する施策がほとんどを占めてきたのであるが、わが国経済の高度成長に伴って、農業労働力が他産業へ流出し、兼業農家の増加あるいは出稼ぎ農家の増加で、農民の階層分化が進み、農業をとりまく諸情勢はかつてないほどの変化をみせている。

この中において人間の英知は、機械化による作業体系の確立を急いだ。それは稲作農家にとって長い間の念願であった田植作業の機械化と収穫作業の機械化である。田植作業の機械化は46年から試みられたが、今年からは本格的に取り組むグループがここにもみられる。谷地中のグループもその一つで、10人のメンバーで30haの機械移植を計画している。屋根のある苗代ともいいますが、ビニールハウス内の稚苗の生育状況は順調で田植を今やおそしと待っている。このグループは変りゆく農業の実態をふまえ、新しい技術なり経営方針を積極的に入れ替え、専門農家として農業の近代化に取り組んでいる。6台の田植機はその期待に十分応えてくれるだろう。

稚苗管理に忙しいグループの人々



叙勲の光栄に浴して
中川原 熊谷 直



大正十一年に台湾の警察官を拝命して戦後戦後

介石政府に留用されて引揚げが一
年遅れ、第二次で引揚げてから県
警のお世話になって一昔、昭和三十
一年三月まで外内地を通じて三十
余年の勤務を省みて、心に残る
ものは功績どころか一日として満
足なお勤めをした思い出がなく、
悔恨ばかりが心の底にこびりつい
て消し難い怨そうにあえぎながら
もつと人のためになる警察官にな
らねばと悩み続けているうちに、
定年に迫り着かれた私なので、夢
にも考えたことのない叙勲のごさ
たを承って誠に汗顔のいたり、穴
があつたら入りたい気持ち一杯で
す。

台湾の戦時下では毎日空襲警報
に随分と弾の下もくぐりました
叙勲に値する程のものもないが
とを充分承知してははずなのに
よくの皮は人一倍強く、下さるの
のごさたには平素の考えとは裏腹
にした。手が先にでてしまう醜さ
でした。

既に老令ものの役に立立ちそう
もないが、かくなつた上はいくは
くもないかも知れないながらも余
生を十二分に駆使して、過去の不
足を消す事に専念しながら長年
町民の皆様へのご恩報じができる
ならば幸いこれに過ぎるものがあり
ません。

建築協定制度の活用で ～住みよい街づくりを～

「建築協定制度」は、地域住民自身のとりきめによって生活環境を破綻から守り住みよき町づくりを推進する上に極めて有効な制度です。特に最近の高層住宅建築による日照障害、企業による汚水、或いは風紀上好ましくない建築物による生活環境の悪化など大きな社会問題となっており、建築基準法にもとづくこの協定制度は、これらの問題を未然に防止することができ、具体的な云々と、自分たちの地域の環境を良好に維持する目的で建築物の用途、位置、構造については、らん、用途、形態などについて自主的に協定し、所定の手続きを経て知事の認可を受けると、この協定に加わった人ばかりでなく、その協定区域内の土地を買ったり、借りたりした人もこの協定に従う義務があり、種々の紛争問題を引き下す心配がなくなります。

「建築協定制度」は、隣家との距離を定める。その地域の建築物の用途を定める色彩、広告看板を統一する。色調を共同化する。子ども遊び場を確保する。などいろいろあります。また、日照権の侵害がなく、美観の維持ができて、環境が汚染されない。隣同士のトラブルがなくなる。などがあげられます。それぞれの地域特有の良さを生かして、住みよい、明るい街づくりのためにこの制度を大いに活用していただきたいと思ふ。〔本町では町民の皆さんが、ついでにこの制度を活用できるように去る三月の町議会において建築協定制度を制定してあります。〕

なご詳細については、役場建設課または企画管理室へお問い合わせください。

土木工事入札

昭和四十七年度町の土木工事の入札を先般実施し落札者は次のとおり。

- 広ヶ野緑道改良(田野地内) 斎藤政郎
- 広ヶ野裏通り緑道改良(広ヶ野地内) 高山喜美夫
- 黒土緑道改良工事 渡辺辰作
- 神興社通り緑(鍾町)長谷川次郎
- 中村緑道改良 佐々木喜久也
- 田町一号緑道改良 小林政則
- 岩城橋架設工事 坂谷昭二
- 大川下水路工事 小原直三
- 岩城住宅側溝改良 佐々木茂夫

以上九ヶ所で竣工は五月二十一日～八月四日まで

なく気軽に申し出下さい。

水道で結んだ 明るい町と家

計量器検査の「実施について」

計量器を取引上または証明上にも使用する場合は二年に一度定期検査を受けることになっておりますが、違反した場合は五万円以下の罰金課せられます。

左記によって定期検査を実施しますから必ず受け付けて下さい。

なお係員が十一日でご事前調査に廻っておりますのでこの協力下さい。もし当日都合合わない場合は別の会場で受けて下さい。

- 五月二十二日～二十三日 五城目地区(含田沼)公民館 午前十時～午後三時
- 五月二十四日 富津内支所 午前十時～午後三時
- 五月二十四日 内川支所 午後一時～三時
- 五月二十五日 大川 出張所 午前十時～午後三時
- 五月二十五日 馬場目 農協 馬場目支所 午後一時～三時

日中戦前の前から軍需景気は始まっていた。例として、昭和十一年(一九三六)中の本町の好況をおいてみよう。一近年にならぬ況を終結し、町産業中庄制の生産額を以て木材王国の名にそむかず製材十万石をこなし、百万円にも上り、おとどきの概算九十万円の産額となった。木材業者六十名、二名、五工場、「五城目木材」は製材六万石、原木二万石、売上五十三万円、「加賀製材材」がこれに次ぐ実績をあげて居る外、他も前年に比し売上二割増となった。本年も好況は持続するものとみられ、本年は有望の「百万円生産」を実現するものと思われる。原木の地産の産出は一割に過ぎず、九割は遠い所から仕入れるため、巨額な産額の割合にはもうかつていない。これは資財の乏しい運輸不便の本町業界にとって、販売競争の上で、積年のなやみとなつて居る。また、あれ木材業界は、木材の化学的用途の拡大につれ製紙原料、人絹原料に用いられ、さらに軍需の拡大で好景気を背負われ、全国的に女思感買気にあおられ張りきつて居る。本年は本町木材業界の歴史的飛躍の年となりそうだ。「湖東時報」(12・2・5)の記事の要約である。

軍需景気

二

に及ぼすものは大きい。五城目は木材と酒で百五十余万円の産額をもっている。町産業の振興は、木材と酒を中心として西浦すべきである」といっている。

十二年(一九三七)になって、景気はさらにのびた。ちなみに、十二年度の五城目町の予算は、五〇九三七円、一〇五五〇円、二〇五五〇円、最低五〇〇円、平均一〇九円、売り上八六五〇円、二割強の高の軍需景気だった。五城目の馬産地は馬場目と富津内である。

この年は好景気に加えて、いろいろな運挙があつて町や村はぎやかだった。町村会議員選は四月十四日馬場目、二十五日五城目、富津内、二十六日大川、五月十四日馬場目、五月十四日面湯である。四月三十日には衆議院議員の選挙があつた。六月二十九日は県会議員の補充選挙があつた。これは好景気ではあつても、町税の滞納は多くその徴取にはくふうが必要だった。五城目では税金完納者に、福引券をおくつて納税を奨励している。一等反物五円、商品券五円、二等浴衣地一反十、三等下駄一足三十点、四等手拭一両合である。

※こうした記録の慣例にしたがい人名はすべて敬称を略させていたためです。

問題となつております建築基準法にもとづくこの協定制度は、これらの問題を未然に防止することができ、具体的な云々と、自分たちの地域の環境を良好に維持する目的で建築物の用途、位置、構造については、らん、用途、形態などについて自主的に協定し、所定の手続きを経て知事の認可を受けると、この協定に加わった人ばかりでなく、その協定区域内の土地を買ったり、借りたりした人もこの協定に従う義務があり、種々の紛争問題を引き下す心配がなくなります。

「建築協定制度」は、隣家との距離を定める。その地域の建築物の用途を定める色彩、広告看板を統一する。色調を共同化する。子ども遊び場を確保する。などいろいろあります。また、日照権の侵害がなく、美観の維持ができて、環境が汚染されない。隣同士のトラブルがなくなる。などがあげられます。それぞれの地域特有の良さを生かして、住みよい、明るい街づくりのためにこの制度を大いに活用していただきたいと思ふ。〔本町では町民の皆さんが、ついでにこの制度を活用できるように去る三月の町議会において建築協定制度を制定してあります。〕

なご詳細については、役場建設課または企画管理室へお問い合わせください。

六月一日～七日は水道週間です

水道課では、きれいな水を豊富にし、しかも低廉におくりつづけるため日夜努力しています。

- 水道は、伝染病をふせぐはたらきをします。
- 水道は台所を明るくし、家事のむだをはぶきます。
- 水道は、消火に活用するほか、いろいろな仕事に利用され、社会活動のささぎとなつております。

このように水道は、私たちの生活でも不備な点がありましたら遠慮なくご相談ください。

山火事は自然をこわす

山火事防止強化期間

四月十日～五月三十一日

山火事は自然をこわす。四月十日～五月三十一日。山火事防止強化期間。

その頃、加賀製材の経営者加賀直治は「私の工場一つでも、一か年に地元へ支払う労賃だけでも四万円からある。五城目木材でも八万円程の賃金を地元へ落しているはずだ。これが直接間接に町

加入もれの人はおりませんか 国民年金からのお知らせ

いま役場では、国民年金の加入もれ者をなくすため、該当者をしらべていますが、特に昭和十二年四月一日以前に生まれた人(この四月一日で三十五歳以上の人)で加入もれとなっている場合は、いまずか加入手続きをしてことしの六月三十日まで、将来、老齢年金をうけることができなくなりま

す。次のことをお説みになり、加入もれ者になっている人、またはそのご家族は、いまず役場年金係までお申出ください。

わが国では、国民年金をはじめサラリーマンを対象とした厚生年金保険、職員保険、各種の共済組合など八種類の年金制度があり、二十歳以上の国民は必ずどれかの年金制度に加入する建前となっていますので、厚生年金などの戦後の年金制度の加入者、その制度から年金をうけることができる人、これらの人達の配属者およびご生(昇任部)などを除いた二十歳から五十九歳までの人は必ず国民年金に加入する義務があります。ですから、農業者や小売店、家庭用自営業などの自営業とその家族、従業者が五人未満のたの厚生年金が適用されていない事業所で働いている本人とその家族、無業者などは、ご本人の意思と関係なく国民年金に加入していただくことになっております。

ところで、国民年金は、年をとったときに老齢年金(六十五歳から)けがや病気で心身の障害者になったときに障害年金、一家の働き手が死亡したときに母子年金、遺児年金または寡婦年金などを支給し、それをご本人や家族の生活を保障しようとする制度です。これらの年金をうけるためには、この一定期間を、老齢年金をうけるためには二十五年以上(ただし、昭和五年四月一日以前に生まれた人は年齢に依りて十年から二十四年に短縮)必要であり、障害年金、母子年金をうけるためには、一年以上の期間が必要ですが、一年以上の期間を忘れておいたり、加入しなかつたか年金をうけられなくなりました。この場合、二年間忘れておきますと納められなくなってしまう。

ますので、くれぐれもご注意ください。

かけ金は月四五〇円(ことしの七月分から五五〇円)となっており、これをうけていただきます。政府も同時にこの半額(二二五円)をつぎまし、合計六七五円が積みだてられますので、大変有利な制度です。これを忘れずにかけていただきますと、老齢年金は、十年間納付者には六万円(年額以下同)、二十五年間納付者には九万六千円というようにそれぞれかけ金の期間に応じて

昭和四十七年度

秋田県青年海外研修団員募集

- 一、目的
秋田県の青年を規律ある団体行動のもとにソ連へ派遣し、同国青年との親善、交歓、秋田県文化の紹介、各地の視察、見学等を行わせることにより、国際的視野を広め、国際協力の精神を涵養し、青年に日本の姿を正しく理解させるとともに、きたるべき日本海沿岸経済圏時代の認識を深めさせ、もって、次代にならな中堅青年の育成を図ることを目的とする。
- 二、主催 秋田県
三、協賛 市町村
- 四、期間 昭和四十七年八月十四日(二十七日までの十四日間)
- 五、コース シベリア、モスクワ
- 六、募集人員 五城目町への割当 人員 二名
シベリアコースの募集人員一名
(男)
モスクワコースの募集人員一名
(女)
- 七、資格要件
①国籍、年齢等
五城目町に在住する者で、日本国籍を有する二十才以上三十才以下の男女で年令計算の基礎は昭和四十七年四月一日現在とする。
- ②身体的条件
団体生活に適応できる健康な者で、特に伝染性疾患のない者
- ③規律順序
主催者の計画に従って規律ある行動のできる者協調性に富み、団体生活に適應できる者
- ④社会への貢献
将来、地域社会または職場のなかにあって、リーダーとして活動が期待できる者
- ⑤欠格条件
①シベリアコース 一人 一九九、〇〇〇円
②モスクワコース 一人 二二九、〇〇〇円
ただし、シベリアコースについては、参加者、町が各三万五、〇〇〇円、モスクワコースについては、参加者、町が各五万五、〇〇〇円を負担し、残りの経費は県において負担する。



～ゴミ追放大作戦開始～
保健衛生課ではゴミを追放し日本一きれいな町にしようと、8日役場ならびに団体職員により河川敷のゴミ追放をおこなった馬城橋から下流に向けて進撃、ブルドーザーも参加するなど本格的な作戦を開始した。

暮らしの案内

●●●●● 五月の健康メモ

そろそろ農繁期。天気とにらめっこし、こまめに気持が外の方に向いていないでしょうか。
農繁期に入ってから二三日はすごく疲れを感じるでしょう。しかしそれ以後はそれほど疲れを感じにくくなります。だからといって無理は禁物。体が仕事に慣れたからそれほど疲れを感じないのではありません。体力はどんどん消耗しているのです。

腰が痛い。肩がこる。手足がしびれる……等の症状はないでしょうか。忙しさにまぎれ、朝食、昼食は手をのびがず、一日の仕事のエネルギー源となる朝食をちょっと手を加えて作ってもらいたいです。田植の時期になると手首に糸をまいたりしている人が

見かけます。それから手がおきにくくなるという方じやないでしょうか。まず予防に気をつけましょう

第一に手首の運動に無理をしないことです。田植、田の草とりなど仕事の中に小休みを多くはさんで、よいよい手を休めることが大切です。又仕事初めに手首をふたたり、廻したりして準備体操することでもよいでしょう。無理過激な労

婦人病検診のおしらせ

健康なあなたも検診を

ことしも次の日程より婦人病(子宮がん)検診を実施いたしますので、さそい合せて多数受診してください。
▽日時場所
六月二十日(火) 大川出張所前

二十一日(水) 同右
二十二日(木) 湖東病院
二十三日(金) 同右
二十六日(月) 馬川公民館
二十七日(火) 馬場児童館
二十八日(水) 杉沢町馬場
二十九日(木) 湯ノ又公民館

ごみ収集日

6月のごみ収集日はつぎのとおりです。

町名	月			
	1回	2回	3回	4回
希望ヶ丘	3	10	17	25
田原野	3	10	17	25
今野	3	10	17	25
御成	3	10	17	25
長仲	6	13	19	24
米沢	6	13	19	24
畑地	6	12	20	27
畑畑	7	14	21	28
新矢	7	14	21	28
昭	7	14	21	28
古	7	14	21	28
川	2	8	15	22
久	2	9	16	23
原	1	9	16	23
池	1	9	16	23
香	1	9	16	23
原	1	9	16	23
町	1	9	16	23
川	1	9	16	23
内	1	9	16	23
津	1	9	16	23
馬	1	9	16	23
場	1	9	16	23
日	1	9	16	23
川	1	9	16	23
大	1	9	16	23
面	1	9	16	23
川	1	9	16	23

★不燃物には標箋を忘れないでつけてください。
★ポリ袋、標箋は最寄の委託店でお求めください。

働とならぬよ気をつけましょう
やむを得ずそら手になつたら、
ずくずく縮む場合は濡れタオルで冷やすのもいいが、痛みが楽になつたらなるべく早く温湿布にきりかえた方がよいでしょう。包たいはなるべく厚く木で、最善が動かさないよう固定しておき、手指の場合は注射してもらった方がよい。農薬散布が盛んになります。十五日から六月十日までの農薬危害防止運動にもんで農薬の正しい使用法を身につけよう。

三十日(金) 富津内児童館
▽受診料金
一人九百円ですが町で三分の二(昨年度では二分の一)補助しますので、自己負担は三分の一の三百円です。(農協婦人部員は二百円です。)受診料は検診日当日受付へ納金して下さい。
▽希望者数の多少によって変更もあり得るのですが、希望申込み者へ通知します。
▽都合によっては他の日時、場所へ行って受診して下さい。

司法書士認可に関する
選考試験案内
昭和四十七年度標記試験を次の要領で実施します。
一、試験期日 七月十六日(日)
午前九時三十分から
二、場所
秋田市山王四丁目二番三三三号
秋田県自治会館三階大会議室
三、申請書類用紙の請求先
秋田市山王七丁目一之三
秋田地方務局総務課
郵便で請求するときは、住所・氏名および郵便番号を書いて、二十円切手をはった定形の返送用郵便封筒を同封して下さい。
四、受験申請書受付期限
六月五日(月曜日)午後五時までに。
郵送による場合は、六月五日までの消印のあるものに限り受け付けます。
なお、詳細を知りたい方は役場総務課までご連絡下さい。

ヤング登場 産業の変身



博 伊 地 伊 恋

私は農家の長男だが、最近の農業にはバラ色の夢がなさすぎます。米は増産から、減産に変わり米に代る転換作物を植えるよう奨励しているが、果してこのよなその場かぎりの政策で農業は救われるだろうか。寂然としもの本によれば、資本主義の国が、農産国から工業国へ脱皮する時に必ず出でくる現象だといっている。国の偉い大臣は十分承知しているはずなのに、農業の政策は小手先のものが多く、デモンストラクでは、農家に対する貸付金の期限が、九十年や百年が当然のようにおこなわれている。それが、わが国でも、専業農家は勿論、農業をやる人に対して、十分な融資政策を講じないことには外国の農業と競争する能力はおろか、輸入農産物にたちまち市場の座をうばわれることになる。いろいろな農業資本制度をみると、五反百姓は殆んど利用できない状態になっているが、このような若者農家を今テレビで流行の愛身(転身)させようとするならば、やはりわすれずたんばにしがみつかなくとも十分生活できる新しい産業が必要だと思ふ。経営の合理化で多い町でも大分散を失った人が多いと聞くが、生活が苦しくなるということも、人口の町外流出をまねくことになるのではないかと。私は農作業の合間合いにそんなアルバイトをしてみた。感じたことがある。それは五城日町の産業に新鮮味がなく、何か「カンタン」に感じている。そして旧態依然とした産業の中に、じこもいて、一万数千人がそれらに転職は昔かたぎりの人々には深刻な決断を要求されるだろう。そのブライドも許し得ないだろうが、一歩町外に出てみるというひび張らずに、サラリと自分の職を変えている人が非常に多いことにおどろく。生きがいへのチャレンジとも、新しい産業へ出ないか、当人たちにわからないが、フレッシュなフアイトを感じていいような新鮮味がある。

最後に町当局にお願いがある。それは、この町に未来産業を誘致してほしい。昔二口は誘ったことだが、日本は公害工業国になった。公害防止産業はいかか。国民の総見直し支出額は毎年約二〇%の増加を示している。この規模は住宅、自動車の生産規模に近しい。医療産業は、住宅産業を具体的に、産業のないうち、昼間人口は定着しないと、町を生きかえらせるのに十分な役割を果たすのではないかと、産業の変身に期待したい。